

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

公表の趣旨

今後10年間の本市教育が目指すべき方向性とその施策を総合的かつ計画的に推進するための指針として、令和3年3月に「長岡京市第2期教育振興基本計画」を策定しました。今年度は計画4年目にあたります。本市公立学校の児童生徒の学力・学習状況について、保護者・市民の皆様にお伝えするとともに、更なる学力の向上に向けて、学校教育へのご支援、ご協力をお願いするものです。

調査の概要

1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日 令和6年4月18日(木)

3 対象となる児童・生徒 小学校第6学年・中学校第3学年

※ 義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校の該当学年を含む。

4 調査事項及び手法

(1)児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学）

イ 質問紙調査

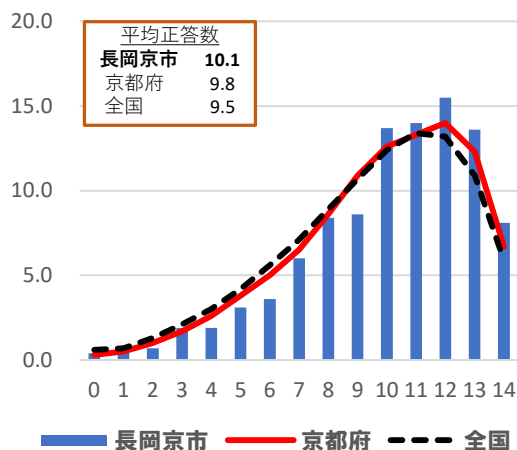
(2)学校に対する質問紙調査

学 力 の 状 況

本市の小中学生の学力は高いレベルにあります

正答数分布グラフ 【小学校】国語:14問 算数:16問 【中学校】国語:15問 数学:16問

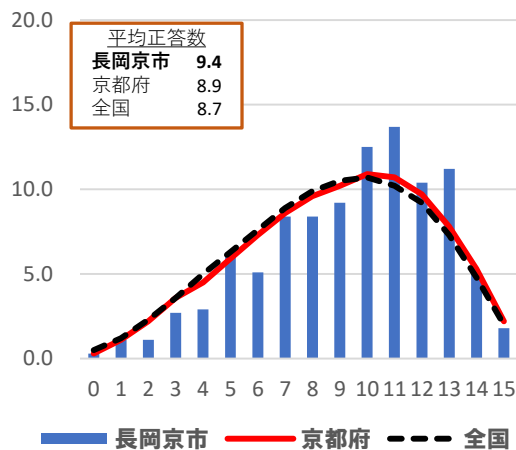
小学6年生(国語)



◆平均正答数の推移(小学6年生・国語、過去3回)

	R 3	R 4	R 5
長岡京市	10.0	9.9	10.2
京 都 府	9.5	9.5	9.8
全 国	9.1	9.2	9.4
問 題 数	14問	14問	14問

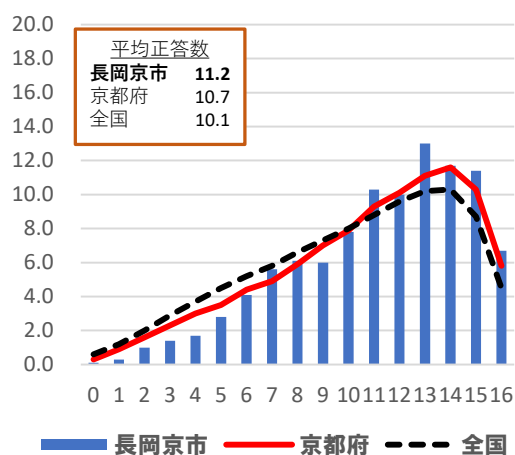
中学3年生(国語)



◆平均正答数の推移(中学3年生・国語、過去3回)

	R 3	R 4	R 5
長岡京市	9.3	10.4	11.2
京 都 府	9.1	9.7	10.6
全 国	9.0	9.7	10.5
問 題 数	14問	14問	15問

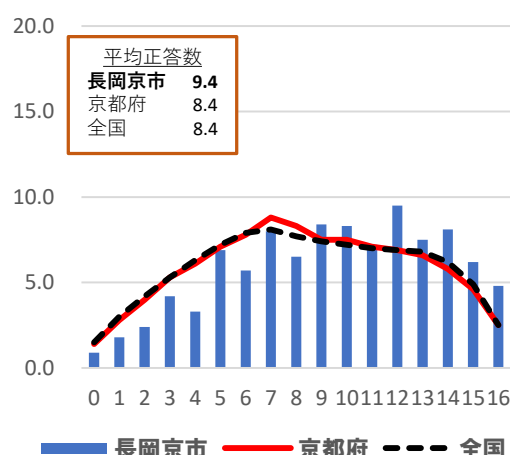
小学6年生(算数)



◆平均正答数の推移(小学6年生・算数、過去3回)

	R 3	R 4	R 5
長岡京市	12.3	11.1	11.1
京 都 府	11.6	10.4	10.4
全 国	11.2	10.1	10.0
問 題 数	16問	16問	16問

中学3年生(数学)



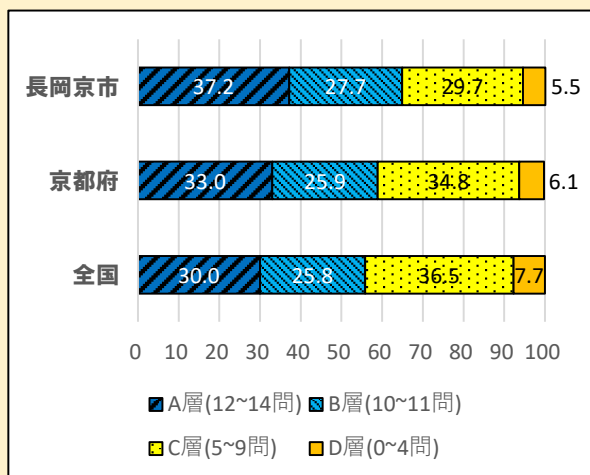
◆平均正答数の推移(中学3年生・数学、過去3回)

	R 3	R 4	R 5
長岡京市	10.3	8.2	8.8
京 都 府	9.2	7.2	7.8
全 国	9.1	7.2	7.6
問 題 数	16問	14問	15問

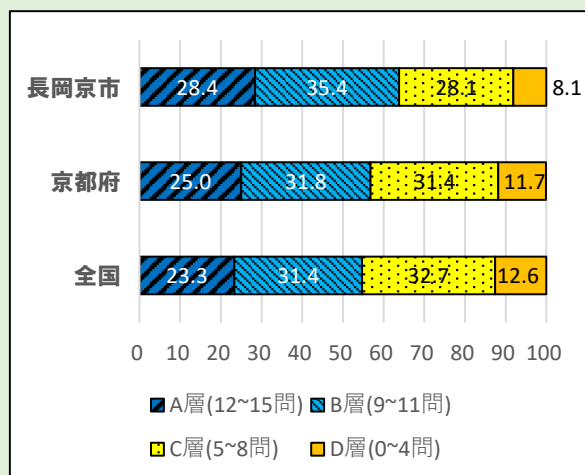
学力層の割合(A～D層)【単位: %】

全国の平均正答数以上の児童生徒をA層(上位)、B層(中上位)、平均正答数未満の児童生徒をC層(中下位)、D層(下位)にそれぞれ2分割しています。

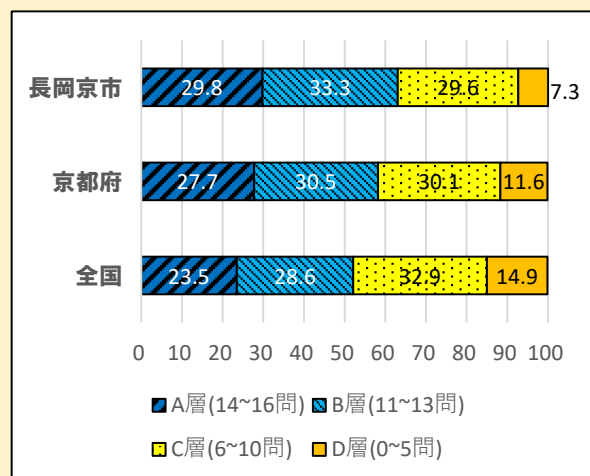
小学6年生・国語



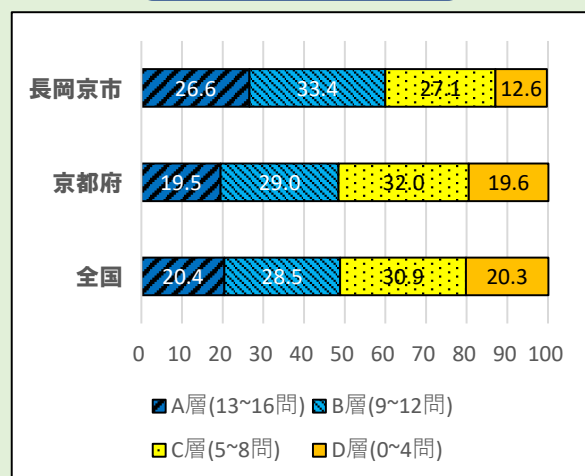
中学3年生・国語



小学6年生・算数



中学3年生・数学



前ページの正答数分布グラフを見ると、小学校、中学校ともに、全国や京都府と比較して、正答数の多い児童生徒の割合が高くなっています。

過去の調査結果も同様の傾向を示しており、本市の小中学生の学力は全国や京都府と比較して高いレベルにあるといえます。これは、ご家庭や地域の教育力、学校・家庭・地域の連携、学校教職員の努力、そして、何よりも子どもたちの頑張りによるものと考えています。

また、学力層(A～D)の割合を見ると、小学校、中学校ともに、全国や京都府の割合と比較して、D層の割合がかなり低くなっています。本市では、「D層を前年度より減少させる」ことを指標に掲げ、教科指導の充実と指導方法の改善に取り組んできましたが、今までの取組の成果が表れているものと考えています。子どもたちの更なる学力の向上を目指して、授業改善に取り組んでいきます。

※具体的な設問例は、4ページ目に掲載

令和6年度 具体的な設問例～記述式問題～

国語の調査では、話合いでの発言や文章から目的に応じて必要な情報を取り出したり、目的に応じて文章を工夫して書いたりすることができるかを問う問題が複数出題されています。

中3国語では、インターネットで入手する情報に偏りが生じる「フィルターバブル現象」に関する話合いの場面を取り上げ、他者の発言を根拠に自分の考えを書く問題が出題されました。

大問 1 四

山岡さんたちは、国語の時間に、【フィルターバブル現象の資料】をもとに、グループで話題を決めて話し合っています。次の【フィルターバブル現象の資料】と【話し合いの一部】を読んで、あとの問いに答えなさい。

問 【話し合いの一部】の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。次の**条件1**と**条件2**にしたがって、**実際に話すように**書きなさい。

条件1 フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。

条件2 【話し合いの一部】の誰の発言と結びつくのかが分かるように書くこと。

藤田さん 私は、この前、インターネットで和菓子作りの本を探して購入しました。そのあと、インターネットを利用するたびに、和菓子作りに関する本が表示されるようになって、次に読みたい本もすぐに見付かりました。

今井さん たくさんの本がある中で、自分の好みに合った本を選んで示してくれるのは、便利ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは感じませんでしたか。

藤田さん そうですね。言われてみれば、和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。②〈図〉のこのあたりにいるような感覚ですね。今井さんは、ふだんどうやって本を選んでいるのですか。

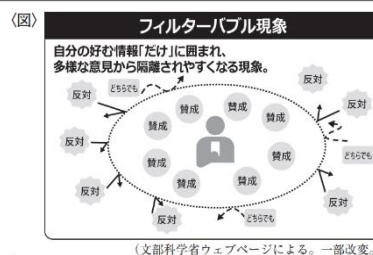
今井さん 私は、図書館や書店で本を選んでみます。読みたい本を見付けるとは時間がかかりますが、本棚を眺めていると、思いがけない本との出会いがあって興味が広がると感じています。

藤田さん 図書館や書店でいろいろな本棚を眺めながら本を選ぶと、時間はかかっても、情報が偏るような状態にはならないでしょうね。

山岡さん そういえば、インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがありますよ。そこで紹介されている本は、本を探している側の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。

今井さん そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことと似ていますね。③おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできそうですね。

山岡さん フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考えてみる必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選ぶと思いますか。



〈解説〉

インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。

例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

山岡さん 皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。

今井さん 私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、趣味にしている将棋に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

山岡さん 〈解説〉の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があります。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか。

今井さん 身近なテーマでよいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。

全国平均正答率が45.1%であった上記の設問において、本市の中学校では、半数以上の生徒が正答しており、無回答率も全国や府に比べて低くなっています。これは、各校で、主体的・対話的で深い学びを目指す授業、課題解決型の授業を意識した授業展開に努めてきた成果が出ているものと考えます。

質問紙調査の結果から

学習指導要領では、新しい時代を生きる子どもたちに必要な力を「資質・能力の3つの柱」として整理しています。

- A 実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」
- B 未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力など」
- C 学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」

国が令和5年に策定した「第4期教育振興基本計画」では、自己肯定感や自己実現、人とのつながりや協働性などを育み、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じたウェルビーイングの向上を求めています。

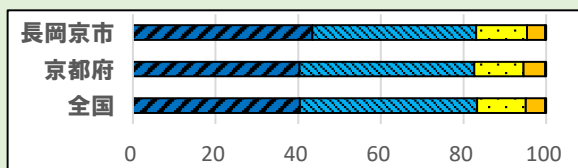
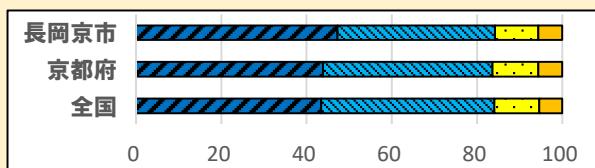
ウェルビーイングに関連する質問紙調査の結果は、質問項目によって多少の違いはあるものの、府や全国と同じような傾向を示しています。

小学6年生

中学3年生

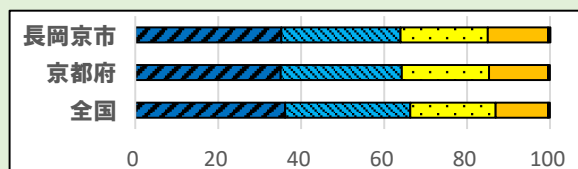
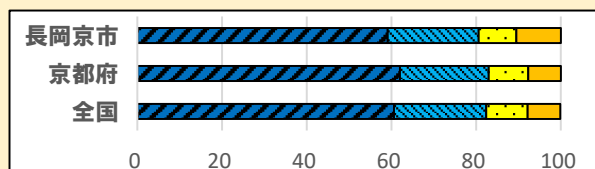
当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない
 無回答

自分には、よいところがあると思いますか

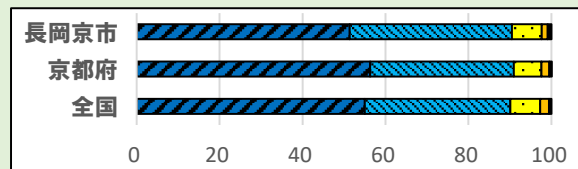
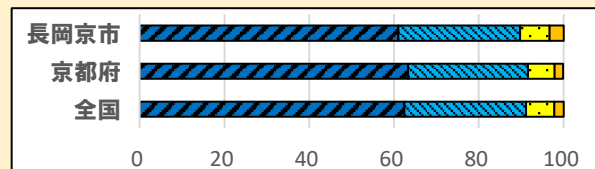


横軸:%

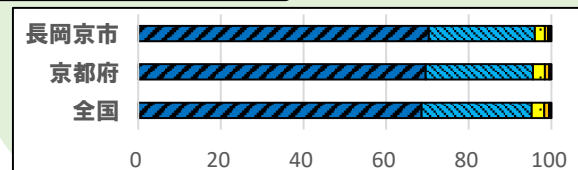
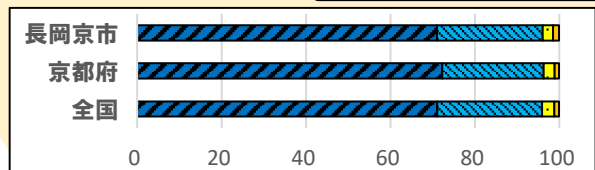
将来の夢や目標を持っていますか



友達関係に満足していますか



人の役に立つ人間になりたいと思いますか



中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』では、ＩＣＴを有効に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善により、学習指導要領にある３つの柱をバランスよく育むことを求めています。

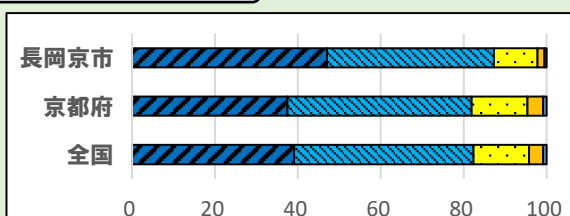
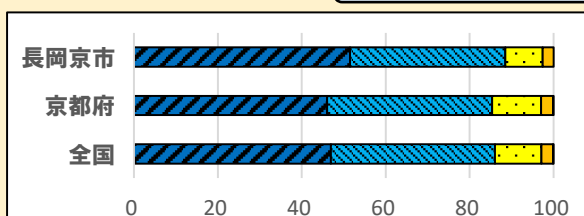
小学6年生

中学3年生

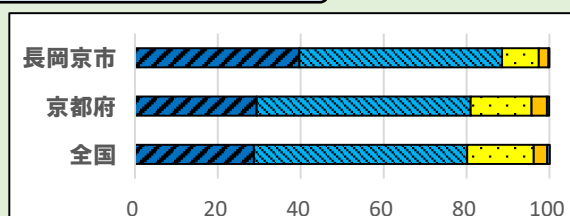
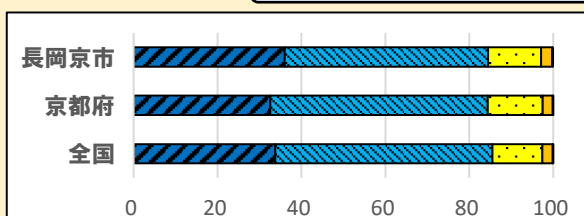
5年生まで(中学1、2年生のとき)の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。

 当てはまる
  どちらかといえば、当てはまる
  どちらかといえば、当てはまらない
  当てはまらない
  無回答

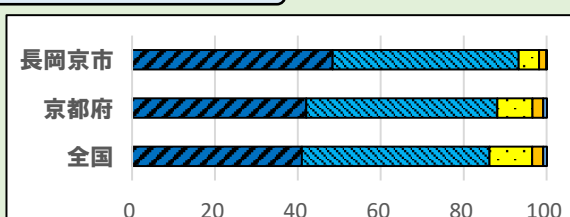
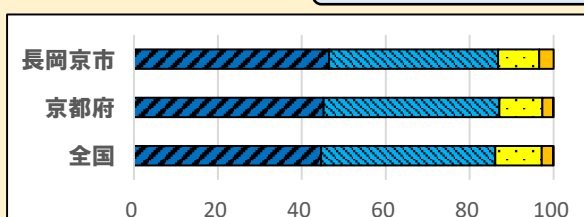
楽しみながら学習を進めることができる



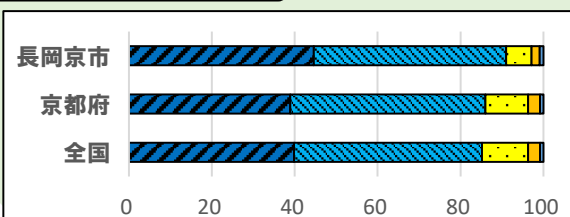
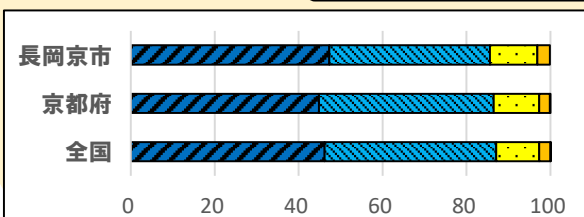
自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる



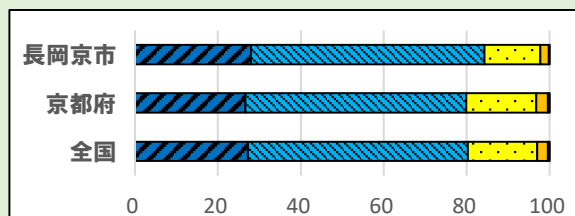
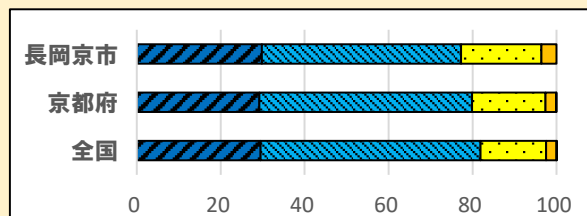
友達と協力しながら学習を進めることができる



小学6年生

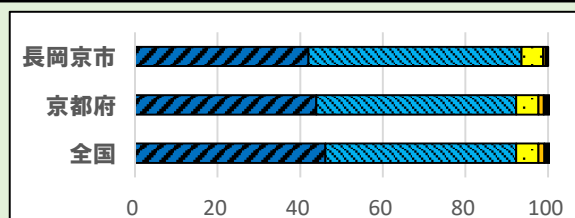
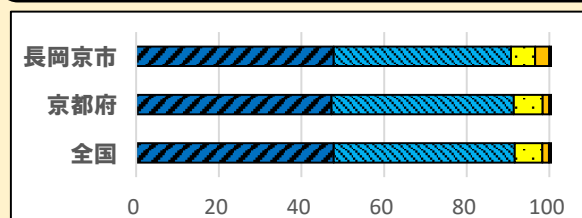
中学3年生

5年生まで(中学1、2年生のとき)に受けた授業で、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



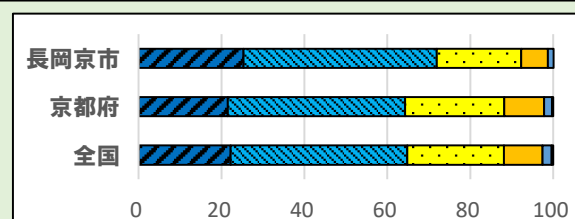
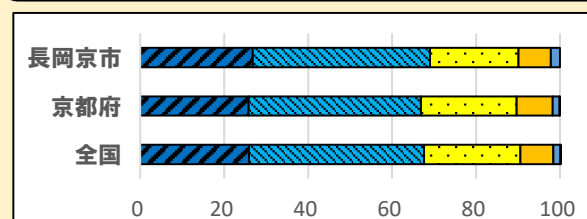
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない ■ 無回答

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない ■ 無回答

5年生まで(中学1、2年生のとき)に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



■ 発表していた ■ どちらかといえば、発表していた ■ どちらかといえば、発表していなかった ■ 発表していなかった ■ 発表する機会がなかった ■ 無回答

本市では、今年度も「教科の学びをつなぎ、社会課題等の解決や1人1人の夢の実現に活かす」ことを目標にタブレット端末の活用を進めています。質問紙調査の結果を見ると、小学校、中学校ともに、ICT機器の活用が積極的に進められていることが分かります。また、小学校段階に比べて、中学3年生では、ICTを有効に活用し、自ら学び方を考え、工夫し、他者と協働しながら、主体的に取り組む子どもの割合が、より高くなっています。今後も、発達段階に応じたタブレット端末の活用を進めるとともに、学習指導要領に基づく主体的・対話的で深い学びの促進に努めていきます。